

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。〔2番 東野恭行君登壇〕

○2番（東野恭行君）

おはようございます。清政クラブの東野でございます。

発言通告書ののっとり1回目の質問をさせていただきます。

1、糸魚川市駅北復興まちづくり計画について。

2016年12月22日の被災から2年がたとうとしております。

被災地の再建に際し、現在までの糸魚川市の手厚い対応に心より感謝申し上げます。今後も変わらぬ対応をお願いしたいと考えますが、平成30年11月1日現在、被災された地域で亡くなられた方が7世帯8名。日本の人口減少と高齢化社会の縮図が、被災された地域でも例外なく如実にあらわれています。駅北の復興と合わせて、人口減少問題も喫緊の課題として取り組んでいかなければなりません。

これからの駅北の復興は、「いといがわ」そのものが映し出されると考えます。駅北に限らず糸魚川市には、繰り返し繰り返し地域活性のために尽力された先人のご努力があり、現在の姿があります。これから官民一体となるまちづくりを目指すならば、この関係性を継続的に持続する中で、発展を目指していかなければならないと考えます。官民連携でつくり出されるまち（糸魚川）は、子供たちの目にどのように映るのか。子供たちにとって価値のあるまちづくりが、人口減少にブレーキをかけると信じています。

(1) にぎわいづくりの今後の展開について、民間が主体的に継続的に発展を目指すプロセスについて伺います。

(2) にぎわい創出広場に建設される建物の機能について伺います。

(3) にぎわい創出広場に建設される建物、にぎわい拠点施設の「名称・愛称」について伺います。

(4) にぎわいの拠点施設において、産学官連携にちなんだ機能や設備を盛り込む検討はあるのか。

(5) 糸魚川商工会議所の移転について、具体的な案はあるのか。

(6) 駅北の復興を踏まえ、国道8号からの流入を見込む看板設置の検討はあるか。

(7) 官民一体となるまちづくりを目指す中、復興推進課としての役割を終えるめどは。その後の展開をお考えか。

2、糸魚川市における産業振興、企業支援室（商工労政係）の役割について。

職業、学業の理由で90年代後半を境に、県外への人口流出に歯どめがかからない状況があります。新規創業も復興まちづくりにおいては大事な視点ではありますが、現存する地域の企業の魅力と価値をさらに高めていく取り組みが必要であると考えます。市や商工会議所、民間企業が「共通の目的」のもと、協働で取り組んでいく仕組みに加え、税収（売上）をふやすため、外貨を獲得していくための機会をふやすとともに、糸魚川ブランドとして製品の価値を高める必要性から、ものづくり企業の恒久的な育成と支援が必要であると考えます。

しかし、県や市の施策を活用し、専門的な助言をもらうにしてもどのように活用してよいのかわからない企業が多いのが現状であります。これからは、市と商工会議所、企業が情報を共有し、連携のとれた取り組みを行い、市も大いにかかわることで、若い世代にとっても魅力のある職場環境と企業づくりができるのだと考えます。

(1) 糸魚川創成塾2018基礎講座の成果と、次年度以降の予定についてお聞かせください。

(2) 商工会議所と連携を図り、市内事業者の経営課題解決や成長・戦略的展開をサポートする事業展開はお考えか。

(3) 都市型産業支援施設「インキュベート施設」についての見解をお聞かせください。

(4) 0歳から18歳までの糸魚川市子ども一貫教育での「地域人材育成」と、地域企業の「魅力ある職場環境づくり」についてお考えをお聞かせください。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、広場などの公共的な空間にまちづくりにかかわる人が集まれる場を用意をし、人材育成も進め、そこから民間の知識と力によるにぎわいづくりの活動が生まれる。そして、広がることで継続的なにぎわいにつながることを目指しております。

2点目につきましては、まちづくりや創業へのチャレンジと人材交流を進めるため、オープンスペースやキッチンを配置し、大型防火水槽も活用しながら防火意識の啓発も行っております。

3点目につきましては、今後、市民の皆様から親しみやすい名称となるよう、公募等により決定してまいりたいと考えております。

4点目につきましては、子育て支援を公共機能の柱に据える中で、施設の基本的な構想や計画づくりの際の検討に加えていきたいと考えております。

5点目につきましては、商工会議所で特別委員会を設置して、産業振興と駅北エリアのにぎわいづくりに寄与することを目的に検討されております。

6点目につきましては、にぎわいの拠点や広場の整備など復興の状況を捉える中で誘導看板の設置について検討してまいります。

7点目につきましては、復興の状況を踏まえながら最大限効果を発揮し得る組織体制とすべく、柔軟に対応していきたいと考えております。

2番目の1点目につきましては、受講生17名が経営に必要な知識、ノウハウを専門家から体系的に学び、参加者同士のネットワークも構築できたこととあります。年次以降につきましては、段階的な継続を考えていきたいと考えております。

2点目につきましては、現在も連携をして事業者の支援を行っておりますが、地域経済の持続的発展を目指すために、より連携を図ってまいりたいと考えております。

3点目につきましては、起業化支援策の1つとしては有効であると考えております。

4点目につきましては、地域人材育成には、小学校から高等学校までの一貫したキャリア教育が

重要であります。特に高等学校においては、地域と協働した探究的な学びの実現が求められていることから、地域の企業や関係機関と協議を進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

よろしくお願いいたします。

それでは2回目の質問に入らせていただきます。

駅北の復興まちづくり計画について、1番目でございますが、再質問させていただきます。

平成30年11月25日に行われた糸魚川市駅北大火被災者説明会において配られた資料4のにぎわいづくりの今後の展開案の中で重要になってくるのが、まずは訪れる人、まちにかかわる人がふえるという仮説であると思います。そこから次の展開につながり、それを繰り返し、繰り返しすることで持続的な発展につながると理解しました。まちを訪れる人、まちにかかわる人を物理的にふやすために何をテーマとして20年、30年後も継続できるような展開をイメージしておられるかお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

被災者説明会の資料4で、確かににぎわいづくりの展開についての案ということでお示しをさせていただいております。まずは、やはりまちを訪れる人やかかわる人、そういった方をふやしていきたいというところで、そういったところのテーマということですが、やはり我々として考えていきたい、行政としてやっていきたいところというのは、そういった方々が集まりやすい、活躍しやすい場を提供していきたいということでもあります。

その中で、やはりまちのテーマというものは、今、まちづくり市民会議の皆様いろいろな考えていただいたり、今後そういったものをもとに、また本当に何を一本目指していくかというあたりも含めながら、皆さんと考えながら進めていくところかなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

このテーマということなんですけど、若い人、駅北へ行こうというときに、何かしらの目的を持って出かけるような状況をイメージしてると思うんですけども、その目的というか、あそこ行けばどんなことが起こるとか、そのわかりやすさも表現の仕方も必要かと思うんですが、その点についていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

わかりやすいテーマというところで、行政のほうでは、今、市のほうで考えているものについては、やはり若者が来やすいといったところ、特に子育てが非常に魅力があって、ここへ来ればそういったサービスが一括で行政的なサービスも含め、受けられるというようなところから、人に集まっていたいただいて、そこから近隣の、周辺の商店街のほうへ人が流れて、消費活動につながるというようなことを考えていきたいと。そういったところを捉えて、特にまた若い人になるわけですけど、自分の商売をしたりとかという、そういうチャレンジにつながればいいなというふうに思っております。そんなような中から、やはり若い人だけの力で進めていけるわけではなくて、いろんな世代の方との交流が生まれる中で、その若い人たちの夢、そういったものがかなえられる。そういったまちになればいいなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

私も20年、30年継続して、そういったテーマに目的を持って、足を向けてくれるまちになればいいなというふうにイメージしておりますので、よろしくをお願いします。

続きまして、2番目のにぎわい創出広場に建設される建物の機能について細かく質問させていただきたいと思います。

およそ1億8,000万円の事業費をかけて建設する建物の主たる機能は、地域交流の場、小さい産業を起こす場、防災意識を高める場とありますが、まず、地域交流の場の設置について伺いたいと思います。

これは個人的な考え方になりますが、糸魚川市においてもさまざまな活動が市内において行われており、その活動一つ一つにそれぞれの団体やグループがかかわっております。活発に活動しておりますが、それぞれの団体が、それぞれにばらばらに行い、連動が図れていないのは、糸魚川市にとって損失であると考えます。それぞれの地域で活動をし、地域活性に取り組んでいることは大変素晴らしいことであると考えますが、さらなる広がりを持たせるため、その活動の発表をにぎわい広場を活用することで広域に周知を図り、後に各地域での活動の集客につなげられないかと考えます。にぎわい広場がプレ開催を実行する場になれば、それをきっかけとして地域の連携も生まれてくると考えます。人口減少が進む中、活発な団体の連動がされていないと力が分散もしますし、もったいないと感じます。

また、違う活動が合わさることで、化学反応が起こるケースがあると考えます。実際に私が、共場コモンズを利用させていただいた上で感じたことです。地域間の連携も同様のことが言えると考えてます。これらをコーディネートする人材がいて、マグネットの役割を担うことで、にぎわい広場から各地域へ、各地域からにぎわい広場への連動が生まれてくると考えるので、適切な人材をど

のように確保するかが肝となると考えております。地域交流の場において、コーディネート役となる人材の必要性をどのようにお考えか、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

地域交流の場というところでの、そうしたコーディネーターとしての人材の確保ということですが、やはり非常に重要なキーパーソンではないか。それが1人ではないかもしれませんが、団体として、組織としてということになるかと思えます。この辺は、現在いろんな糸魚川の中の地域活動やまちづくり活動、そういった見の中では、そういった人たちの接着剤になるといいですか、連携をつなげる。そういったなかなか活動にまでつながっている団体や個人というのが、なかなか見えてきていないのかなと思われます。こういった場の中にそういった方を今後いろんな中から生まれてくるように我々として、行政としても支援をしていきながら、市としてまたそういった方々と、要は各団体のリーダーさんとかになるかと思えますが、そういった方々とつなげながら、それらのそういった団体をつなげていく方を見つけ出していきたいと。そういったことを市としては今後考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

これ団体にも限らず、本当に細かく小さな活動をされてる方で、すごい輝き持ってる活動されてる方がいらっしゃるんで、それをつぶさに集める作業というのもすごく必要になってくると思うんで、そういう人たちが輝くような場にもなっていたらいいなというふうに思っておりますんで、そういった意味での接着剤、コーディネートできる役割を持った人材を探していただきたいなというふうに思っております。

次は、小さな産業を起こす場について伺います。

若者や女性のやりたいことの実現の場とありますが、キッチンなどの水回りを使用する以外での起業、やりたいことをどのようにサポートしていくのか、お伺いしたいと思います。

にぎわい創出広場の整備について（案）では、商店街での起業と限定された表記であったが、さらなる発展的な展開が期待される場所であってほしいと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

まず、キッチンはインキュベーションの機能も含めてということで、そこと、あとやっぱりオープンスペースも用意しますので、そういったところで食にかかわる以外のもの、そういったことで

チャレンジをしたい方が、例えば何か小さな体験ショップといますか、そういったことをやるのか、そういったいろいろな多面的な活動、使い方というのも想定できるのではないかなというふうに考えております。

それから、市のほうでは、今復興をテーマにこういったところをやっておりますので、周辺の商店街のにぎわいをということですから、そこらに起業・創業につながるよというふうには考えてはいきたいですが、そこに限定するものではなくて、それ以外のエリアにやはり羽ばたいていく、チャレンジしていくという方も決して拒むものではありませんので、そういった活動の広がりというのも今後期待していきたいところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。商店街以外の起業についてもサポートしていく施設になるという理解をさせていただきます。

続きまして、防災意識啓発の場について伺います。

防災教育プログラムの展開とありますが、詳しくお聞かせいただきたいと思います。

先日、糸魚川市内県立3高等学校合同、地域の声を聞く会に参加した際に、いただいた資料の中に新潟県立糸魚川白嶺高校の資料がありました。その取り組みとして、糸魚川市教育委員会と連携した白嶺防災フォーラムという取り組みがありました。県外防災教育先進校との交流会を通して、防災マインドを育成しますとありました。その取り組みと関連性があれば、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

今ほど議員おっしゃられた白嶺防災フォーラム、そういった活動もこの場をいろいろ使っていたり、そういった活動とここでの防災教育というのが連携するというのも非常に素晴らしいものになるのではないかなと思います。

今、市のほうで想定しているものにつきましては、やはり第一には市内の小中学生等がここへ来て、今までの、今回の大火の経過とか、そういったところを見ながらやはり防火意識を高めるのは大切だよというようなことをここで学んでいくという場になっていければと。そういったことを展示できる。そういったことが教育に役立つようなそういったものをここで、要はハード的にはそろえながら、あと教育というソフトの展開で進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

昨年、一昨年ですかね、こども消防団というのもできたと思いますので、その彼らを、彼らにも参加していただいて、いろいろソフト的な事業も想定できると思いますので、施設を有効に利用していただいて、活性していただきたいなというふうに思います。

個人的な意見ですが、市の総合計画の中の立地適正化計画（案）の誘導施設の設定にも若者が集うにぎわいを創出するための必要な施設と記載されていることから、肝いりの事業として取り組む事業だと捉えられます。3つの柱となる機能だけを見ると、その場での収益を生み出すイメージがなかなか浮かびませんが、まちとかかわるきっかけの場という役割からの持続的な発展性を考えるならば、必要な施設であると考えます。

しかし、地域に持続的な発展を望むなら、この施設においても柔軟な展開を繰り返していかなければならないと考えます。大事なことは、この施設が地域の方、糸魚川市にとって必要な場所であると感じていただくことでもあります。何のために財源、税金を投じるのか。さらなる説得力が必要であると考えます。

私は、糸魚川市にとって必要な人材が生まれ、育まれる場所という価値観を考えると、当面は、今の糸魚川市にとって必要経費であると考えます。そして、そこで運営するであろう人材に税金を投入するという一方で、好奇の目にさらしてしまう場所にしてはならないと考えています。業務委託になるのか指定管理者制度になるのか、現段階では決まってはいるまいと思いますが、大火以前から主体性のある人材の育成、民間主体の持続的な発展は、大きな課題であったと考えます。きっと誰かがやるんじゃないという風潮に、私は我慢ができません。もっともっと若い世代の何かしたいをくみ取って、次の可能性につなげていただくことが、これからのまちづくりに必要なことではないかと考えます。

今後、議会と行政は、過去の権現荘問題の検証や反省を生かし、同じことを繰り返さないよう主体性を持って判断し、かわりを持たなければいけないと考えます。あずかり知らないところで事件が起きたでは済まされないと考えます。企業によるサウンディングが現段階で不調に終わってしまっている以上、民間の意見をくみ取った施策に自信を持って取り組んでいただきたいと考えますが、市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

にぎわいの広場、また、にぎわいの拠点においても同じだと思うわけですが、やはり施設というのは、非常にいろんな考え方、またいろんな制度の中から、ある程度想定できる部分ができているわけですが、しかし、質問の中であつたり、また答弁の中でもありますように非常にどういう機能を持った、またどういう方向性を持ったという形の中においては、そこで一番コーディネーターとなる核となる組織・団体、そうしたリーダーが必要になってきます。これはどういう形であろうとそういうものが大事になってくるわけですので、それをどのように行政としては、その機能なり、また目的に向かって動いていけるかという、やはり環境づくりが行政が一番やらなくちゃいけないだろうと思つる次第であります。その辺をやはりにぎわい広場の活用の中では、

要するにそこから周りに、またさらには市外に発信をしたり、また連携をとったり、またその辺の中から外へ、外から中へという、そういったことを市内全域に広げていけるようなことに持っていかなくては、私はならないと思っておる次第でありまして、そのような形をどのようにつくっていけばいいのかというのが、一番今少し悩む部分でもあります。

しかし、これは決して物ではないわけでございまして、人がその中の役目をしていただかなくちゃいけない部分になります。ですから、それを機能をどのようにしていくのか、どのような環境をつくればいいのか、これはやはり行政だけではだめで、今、市民会議の中で、またいろいろご意見を賜りたいし、また、商工会議所や商店街や商工会の皆様方と連携をとっていかなくてはいけないと思っております。そういう環境をしっかりと整えて、そしてそこへどういった方々や、どういった人たちが入っていただけるかという形になるうかと思っております。

それについても、やはり限られた枠の中、限られた施設の中で、最大限機能を発揮できるものに努めていきたいと思っております。ですから、そこで一貫して終わるものではない。そして、広げていかなくてはいけないという大きな目的を持って、取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

市長、ご丁寧な説明ありがとうございました。

続きまして、にぎわい広場に建設、にぎわい拠点の施設の名称・愛称について再度質問でございますが、こちら決め方についても、ぜひ慎重に協議していただきたいと思えます。

続きまして、産学官連携にちなんだ機能や設備を盛り込む検討はあるのかということで、再質問させていただきます。

平成30年11月20日に開催された奴奈川経済懇話会、広域社団法人糸魚川法人会の研修会、そして、平成30年12月7日に開催された平成30年度糸魚川市県立3校合同の地域の声を聞く会に糸魚川市産業部農林水産課産学官推進企画幹の久保田氏がお見えになり、子ども一貫教育と産学官連携による地域人材の育成と確保の必要性についてご講演いただきました。

その中のコンソーシアムを構築した糸魚川市地域人材養成施策については、糸魚川の20年先、30年先を支えるための仕組みづくりとして重要な施策となると感じました。そして、にぎわい拠点施設、子育て支援分野の整備について（案）の資料の中の課題の中に子ども一貫教育による切れ目のない子育て支援環境とあります。

この糸魚川市地域子育て支援分野の整備について（案）において、施設内の整備について、学習環境の提供、中学生の居場所とありましたが、糸魚川市地域人材養成施策を踏まえた汎用性のある利活用を目指すべきと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。



にぎわい拠点施設につきましては、子供というキーワードを今いただいております。その中で、やはり就学前教育、それから、小中高の連携というふうにつながっていくんですけども、キャリア教育の視点は本当に必要だというふうに思っています。そういった中で、産学官の連携の機能を持たせるというご提案だと思いますが、そういった設備や機能については、その中でやはり検討して必要があるなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

現在、早稲田大学、順天堂大学などの大学にサテライトキャンパスの設置を誘致していると聞いております。そうすると大学生の滞在型学習プログラムを通じて、交流を促進するための受け皿も必要になってくると考えます。大学の誘致に関しては、復興推進計画と同様、糸魚川市民の皆様が耳目を集めております。

サテライトキャンパスの要件の中に交通の便のよい駅周辺などに開設し、自習室や図書館などの環境整備を条件としております。先ほどの汎用性のある施設の利活用について考えを述べさせていただきましたが、復興推進計画の範疇にとどまらず、広く間口を設けていただきたいと思いますし、教育関係者や、今後、コンソーシアム構築にかかわっていくであろう地域団体、企業に対する意見も伺っていただきたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

まさに今、市のほうで考えているそうした子育てを中心とした施設というもののなかでどこまで取り込んでいけるか。それから、今のような復興まちづくり計画の中にはないんだけど、その施設が有効になってくんじゃないかというような、こういったものについて今後いろいろな検討を深めながら、拠点について考えていかならんというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させて答弁させていただきます。

やはり魅力が大事になってくるわけでありまして、全てそこで集めればいいのかという問題でもないわけでありまして、しかし、その魅力を今、子供という切り口なんですけど、やっぱりゼロ歳から18歳まで、高校生まで対象にしていく部分もございまして、またそれは、単に子供だけではなくて、それに関してはやっぱり大人も集まってもいいだろうと思うわけでありまして、限られた面積の中であるわけですが、どこまで取り込めるかというのは、考えていかななくてはいけな

いと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

教育関係者の方もやっぱりこの辺、興味持たれてると思うんですね。復興推進の計画と、本来切り離して考えなきゃいけないのかもしれないですが、せっかくだからつくるのであれば、やっぱり有効な建設を行っていただきたいと考えますので、ご一考いただければというふうに思っております。

続きまして、商工会議所の移転についてでございます。

平成30年10月17日の建設産業常任委員会において配られた資料の、糸魚川市都市計画マスタープラン改定案の中の地域別構想糸魚川地区に都市機能の集積による中心商業、業務拠点の形成という項目があります。小さい項目の中に北陸新幹線糸魚川駅を中心とした商業、業務、行政、医療などの都市機能を集積するにぎわいの拠点向上とあります。この糸魚川市都市計画マスタープラン地域別構想編（案）は、糸魚川市駅北復興まちづくり計画と密接に連動している部分があると考えますが、20年、30年先を見据えたまちづくりを考えると、糸魚川商工会議所の設置場所は、町なかに訪れる機会減少を踏まえると、小さな産業をつくり出す拠点やにぎわいの拠点が隣接するにぎわいの中心、復興計画の17ヘクタール内に必要な機能であると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

今ほどの議員おっしゃるように、駅北のにぎわいの中での会議所さんの役割というようなことであらうと。そういったことにつきましては、会議所さんのほうでもそういった検討を、特別委員会をつくって検討されております。市としても会議所さんと連携をとりながら一緒にそういった部分についても現在話し合いと意見交換をしておりますので、そういう中で今後どうしていくかということは、その中で見つけてどういうふうにするかを考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

私、この一般質問で何度もこの会議所の件、お話しさせていただいたと思うんですが、糸魚川商工会議所におかれましては、1日の来訪者がおよそ200人ほどおられるそうです。そして、市外・県外からの方からは、現在の商工会議所の場所、所在がわかりにくいということで、ご意見をいただいております。企業が存続する以上、この糸魚川商工会議所は、必要な機関でありますので、お互いが歩み寄りの気持ちで復興計画の17ヘクタール内に組み込まれるように、切に願うところでございます。

エリアの価値を上げるには、どれだけ交流人口、関係人口がふえるかが鍵となると考えます。これから建設されるであろう施設においても糸魚川商工会議所の機能や所在は大事なポイントとなると考えます。糸魚川市にとって有益な移転の調整を期待しております。

続いて、看板の設置でございますが、大変いい回答をいただいたんで、これからも大きな駐車場もでき上がります。海沿いに大きな駐車場もでき上がりますんで、ご検討を継続していただきたいと思っております。

官民一体のまちづくりを目指す中、復興推進課としての役割を終えるめどはということで、質問させていただきましたが、要望を1つ申し上げたいと思っております。

前回の一般質問の中の市長答弁で、5年をめどに計画期間として定めるとご答弁いただきました。これから建設される予定のにぎわい広場の建物は、糸魚川市において復興を象徴する民間主体の大事な機能が組み込まれていくと考えます。そしてこの5年間は、20年、30年持続可能なまちづくりの土台づくりの大事な期間であると考えております。会社・企業には、経営者という責任者がいて、その責任者のもと事業が展開され、持続可能な会社運営を目指してまいります。

これから建設されるのにぎわい広場の建物は、税金を投入する以上、建物が存在する以上、時の市長が責任者として維持・管理していかなければならないと考えます。にぎわいの核施設も同様であると考えます。復興推進課の役割を終えるめどは、地域の方に限らず、糸魚川市民の皆様がいいものをつくってくれたおかげで糸魚川市が生まれ変わったねという言葉と共感をいただくことであると考えます。

私も糸魚川市民として、主体となって自分の役割に責任を持ちたいと考えております。復興推進課の皆様におかれましては、糸魚川市民の皆様の楽しさの自給率を上げられるよう、糸魚川市民の皆様にも共感を得られるように責任を全うしていただきたい、このように思います。

続きまして、2番目の質問でございますが、産業振興、企業支援室の役割についてでございます。創成塾の件について再質問です。

次世代のビジネスリーダーの講演会や糸魚川創成塾2018講演会のような講演会は、成功事例の実績や時代の傾向などを受け、起業を目指す方でなくとも繰り返し、繰り返し勉強するために大切な機会であると考えます。講演会の性質にもよりますが、糸魚川の多くの経営者たちは、講演会やセミナーなどに参加し、日々研さんされており、そういった講演会などで収穫があれば、ご自身の判断のもと、次のアクションにつなげられております。経営者も創業を目指す方も次の実践につながらないことには、その講演会のお勉強も開催するための費用も無駄に終わると考えます。講演会の参加人数も運営する以上、意識しなければならない点ではありますが、一番大事なことは、参加した人にどうなってほしいという目的の設定であり、本来の目的を達成させることであります。講演会を聴くだけでは、本来の目的を達成することは難しいと考えます。大抵の方が講演会を聴き、懇親会等に参加し、情報を得ることで、よいお話が聞けたと満足されてお帰りになるだけではないでしょうか。肝心なのは、次にアクションを起こそうと思った人を掘り起こし、次に向けた取り組み、実践に対しての支援であると思っております。一歩前に出るための支援であると考えます。すなわち、本来の目的を達成させるためのプログラムが重要だと考えます。その支援体制を整えることも今後、検討すべき点だと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今回の創成塾2018につきましては、受講生が17名ということで、そこを基本としまして、3回の講演会を行ったわけでございます。

それで、今年度はその17名の方につきましては、創業に必要な知識、4つの知識がありますけれども、経営、販路開拓、財務、人材育成ということで学んでいただいております。

また、講演をお聞きいただいた方からは、またそれを基本に新たな、今、議員おっしゃったような考えで、新たな取り組みに向かっていただきたいということで思っておりますし、我々も観光面についてもいろいろ考えさせられたところでございます。

今後の支援につきましては、おっしゃるとおりここで話を聞いて、勉強して、終わったというところでは、やっぱりもったいないわけでありまして、一步進んで、そういうお気持ちのある皆さんへは積極的に支援をしたり、情報提供をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。

2番目の項目に入りたいと思います。

市内事業者の経営課題や成長戦略をサポートする事業展開についてでございます。

20年、30年先の糸魚川を想像するに当たり、市内事業者のために戦略的に事業展開をサポートするアドバイス機関やコーディネートを支援する機関が必要であると考えます。現在も商工会議所と連携で取り組んでいただいていると考えますが、現在、糸魚川市において、産業を支えていく取り組みについて足りないと感じる部分を教えていただきたいと思います。

市のものづくり企業の育成や発展的な継続は、さまざまな外部経営資源、研究シーズ、補助金、アドバイザー、協力企業などのマッチングが必要であり、独自のネットワークを構築していく必要があると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

現在、企業支援につきましては、商工会議所ですとか商工会と、必要の都度、情報交換ですとか情報共有を行う中で、企業する方、また事業者に向けて必要な支援制度ですとか、そういうものを情報提供したり、あと当課に企業支援相談員がおりますので定期的に企業を訪問して、企業の悩みや課題を受けて、必要な支援機関へつなぐというふうな役割もいたしております。

いずれにいたしましても、そういう新たな取り組みや何か起こそうとするときには、そういうコーディネーター的な方が必要であるというふうに考えておりますので、現時点では、市と商工会議所、商工会が連携して、これに当たっていききたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

足りない部分というところをちょっとお伺いしたいんですけど、企業支援室として、ちょっと足りない、今これが、こういうところを強化したいなと思われるところをお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大嶋商工観光課長〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

先般、花巻市の起業化センターを視察させていただいたところでございますけども、あそこは専門のコーディネーターが3名ついておられて、またそれ相当の施設が準備されて、いろんな支援策が講じられておりました。全てそこと同じというわけにはいきませんが、そういう何と云いますか企業の皆さんと何かをマッチングさせるとか、そういうコーディネート機能が一番不足してるとはではないかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございました。先ほどの駅北の質問・要望と重なる部分がありますが、これからは人材に投資していかなければならない局面に来ていると思います。もちろん、いたずらに投資するのではなく、地域企業を生かすための仕組みとアドバイスだけにとどまらない具体的な売り上げを上げるため、こうすればもうかるという戦略を享受できるかどうかであると考えます。糸魚川商工会議所においても企業支援室においても、地域の企業のために日ごろご尽力いただいておりますが、おのおのに同じようなことをされていないかを感じる側面がありました。これからは、それぞれが持つ機能や力が分散しないよう同じ目的を合い言葉のごとく共有していただきたい。そのように思います。恐らくこのような要望は、過去にもあったんじゃないかなと思いますが、糸魚川版よろず支援拠点となるプラットフォームを構築するべく、市内金融機関なども交えるなどして、足りない部分をカバーするべく協調を図っていただきたい。このように思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そのような状況を本当に受けとめられるとしたら、本当に申しわけない部分がございます。我々は、精いっぱい連携しているつもりがございます。そういう中で、何か我々もそういうところを薄々少し感じる部分もがございます。何か同じようなことをやってんじゃないか。また、同じような

こと言ってんじゃないか、立場が違うじゃないかというものがあるわけでありまして。我々が、ちょっと入り込んである部分がある部分があったり、また、逆なものがあったりもする部分がございます。その辺はやはり無駄なことをやってる余裕がないんじゃないか。それをしっかりと連携をしながら、強いパワーを出していけるような活動なり運動にしていくことが大事かと思っております。

これは公共的なインフラ整備も同じでございますし、また、民間の経済においても同じであろうかと思うわけでございますので、その辺も1回我々も再確認を、みずからもしなくてはいけないだろうし、また、ほかの方々にも呼びかけをして、それを省いていかななくてはいけないだろうという受けとめ方をさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

続いて、インキュベート施設について見解を聞かせてくださいという内容でございましたが、要望させていただきます。

起業・創業を支援する施策は、当市においてもたくさんありますが、空き家・空き店舗を活用したインキュベート施設の設置も、ぜひご検討いただきたいと思っております。若い世代、若い世代に限らず何かやってみたいに対して、卵をふ化させるという意味合いを持つ施設であります。使える状態の箱があるだけでやってみようという思考が前に進むと考えられますし、アドバイス機関やコーディネートしてくれる機関が複合することで、起業・創業支援の施策に深みが出ると考えます。一緒に育っていきましようという安心感も、起業された方の不安を払拭すると考えます。ぜひご検討よろしくお願いたします。

続きまして、ゼロ歳から18歳までの糸魚川市子ども一貫教育での地域人材育成と地域企業の魅力ある職場環境づくりについて、再質問させていただきます。

こちらでも要望になりますが、ゼロ歳から18歳までの糸魚川市子ども一貫教育での地域人材育成の意図は、手前で育てて手前に置く、糸魚川市で育てて糸魚川で置くというところが一番であると考えますが、側面に子供たちが糸魚川に帰ってきてもらうための起爆装置を植え込むための教育であるとも考えます。必ずしも子供たちが糸魚川に戻ってきてくれるかわかりませんが、前述で挙げたような制度の充実と企業の発展、魅力ある職場環境の整備を早期に行い、繰り返していかなければ人口の社会減を食いとめることはできないと考えます。

冒頭で、駅北の復興が糸魚川を映し出すと申し上げましたが、これからは、各課の垣根を越えて、一丸となって取り組んでいただきたいと考えます。糸魚川市民がわくわくするような取り組みを駅北の復興に映し出していただきたいと思っております。いかがでしょうか、

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

議員おっしゃられるとおり、やはり我が産業部におきましても、それぞれの課がありますけれど

も、いろんな形でふくそうしてるというか、問題があったとしても建設課、あるいは農林水産課、復興推進課、そして商工観光課と入り組んだ問題がたくさんあります。そんな中で、やはり連携をして、しっかりと対応していくことが必要だと思っておりますし、また、産業部だけでなく、例えば教育委員会であったり、市民部といろんな面で連携していく必要があると思っておりますので、今後もそのように対応してまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

重ねて申し上げますが、糸魚川市民がわくわくするような取り組みを駅北の復興に映し出していただきたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。

再開を13時といたします。

（午後0時08分 休憩）

（午後1時00分 開議）

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、平澤惣一郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。〔1番 平澤惣一郎君登壇〕

○1番（平澤惣一郎君）

奴奈川クラブの平澤惣一郎です。

発言通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、権現荘問題疑惑の解明と元支配人及び行政の責任について。

元市営の宿・柵口温泉権現荘不正疑惑問題については、毎回質問をさせていただきましたが、いまだ納得できる答弁はなく、逆に説明を聞けば聞くほど、なぜ1億円を超える赤字が生じたのか、元支配人の私物化ともいえる放漫経営を長年許してきたのか、疑惑が深まるばかりであります。

また、織田副市長の辞職により、なし崩しに責任問題がうやむやにされることも懸念されます。

織田副市長は、なぜ辞任しなければならなかったのか。今なお、続く「臭い物にはふたを」とい